

D-2

学生のレポート行動の要因に関する一考察

A Consideration of the Factors on Student's Repeat Behavior

指導教授 西内 裕晶 轟 朝幸 9018 岩城 裕亮

1. はじめに

国内観光地の観光客は減少している。観光客とは、保養(身体を休ませて健康を養うこと)、遊覧(見物して回ることを目的として観光地を訪れる人を指す。そして、観光地とは歴史・文化・自然景観などの遊覧資産が適切に整備されており、交通機関や宿泊施設などの面で観光客の受け入れを行える地域のことである。清水¹⁾は、特にリピーターを誘致することが観光地の持続的な維持に必須な事項となると述べている。そのため、観光地の活性化のためには観光客を呼ぶだけではなく繰り返し訪れるリピーターを増やすことが重要であるといえる。リピーターの行動に関する研究は佐藤²⁾、大方³⁾によって行われているが、全年代を調査対象としているため研究結果はレポート行動をするための初期条件の差(年齢・収入等)を加味していない。

そこで本研究では、調査対象を初期条件の差(年齢・収入等)を加味するため初期条件に差が少なく、旅行回数が低い学生を対象として分析を行い、学生がレポート行動をする際に何を重要視するのか、その傾向を知ることを目的とする。

2. 研究のフロー

本研究のフローを、図-1に示す。はじめに本研究対象者を決定する。その後、対象者にリピーターになり得る要因についてアンケート調査を実施し、単純集計・考察を行い、リピーターとなり得る人の傾向を知る。

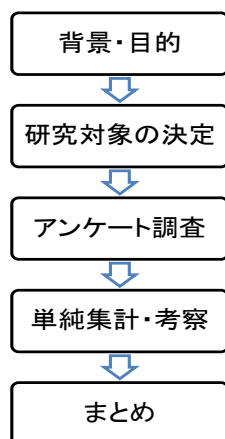


図-1 研究のフロー

3. アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。本研究では、学生のレポート行動に着目することから、日本大学理工学部社会交通工学科の学部生(2, 3, 4年生)・日本大学理工学研究科社会交通工学専攻の大学院生を対象とした。アンケート調査の内容は、まず同じ観光地に行った経験の有無を尋ねた。行った経験のある人には、その際に重要視した項目を5段階で評価してもらい、経験のない人には、同じ観光地に行く際に重要視することを評価してもらった。なおアンケート項目を表-2に示した。アンケート項目は、リピーターになり得る要因・個人属性について聞いている。リピーターになり得る要因については5段階の尺度で回答して頂いた。

表-1 アンケート調査概要

項目	内容
調査日時	2012年12月18日(火)~12月22日(土)
調査対象者	日本大学理工学部社会交通工学科の学部生(2, 3, 4年生) 日本大学理工学研究科社会交通工学専攻の大学院生
配布・回収方法	12月18日(火)に授業・各研究室にてチラシを配布
サンプル数	176人
回収率	76%
配布数	233枚

表-2 アンケート質問内容

Q 1	同じ観光地に行ったことがあるか
〈同じ観光地に行くとき〉	
Q 2	「前回行ったときの満足度」が重要か
Q 3	「思い入れ・愛着」が重要か
Q 4	「観光地の特色」が重要か
Q 5	「季節」が重要か
Q 6	「観光地の天気」が重要か
Q 7	「行く前の体調」が重要か
Q 8	「誰と行くか」が重要か
Q 9	「観光地のグルメ」が重要か
Q 10	「自宅から観光地までの距離」が重要か
Q 11	「自宅から観光地までの移動距離」が重要か
Q 12	「観光地への交通の便」が重要か
Q 13	「旅費」が重要か
Q 14	アンケートについてのコメント
Q 15	性別
Q 16	出身地

4. アンケートの集計結果・考察

アンケート結果を、図-2 に示した。回答者（男性 164 人、女性 12 人）のうち、過去に同じ観光地に行ったことがある人は 162 人、行ったことがない人は 14 人であった。

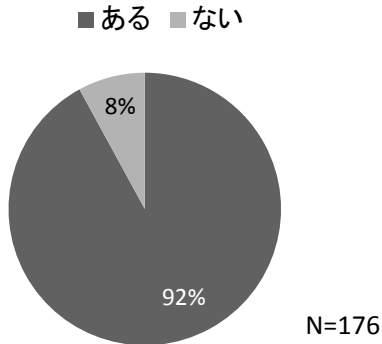


図-2 同じ観光地に行ったことがあるか

次に、同じ観光地に行ったことがある人、ない人の傾向を把握するため、各集団が同じ観光地に行く際に重要視する項目と、その重要度をまとめて図-3、4 に示した。その結果、同じ観光地に行ったことがある集団では「前回行ったときの満足度」、「観光地の天気」、「観光地に行くときの体調」の3項目において、8割以上の人が「とても重要」または「重要」と回答している。

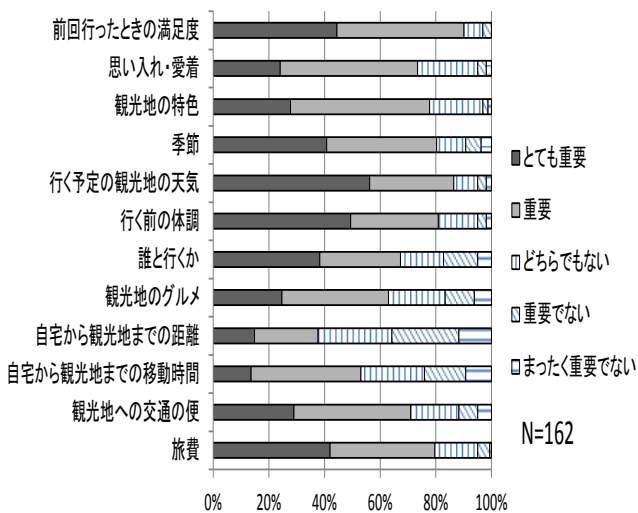


図-3 項目別重要度（行ったことがある集団）

一方で、同じ観光地に行ったことがない集団は、「誰と行くか」、「観光地のグルメ」の2項目において8割の人が重要視していることがわかった。

以上のことから、同じ観光地に行ったことがある人、ない人では同じ観光地に行く際に重要視している項目が異なることがわかった。

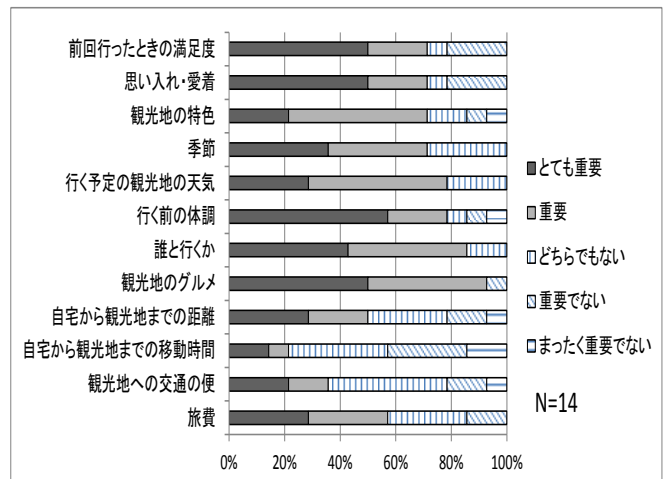


図-4 項目別重要度（行ったことがない集団）

5. おわりに

今回の研究では、日本大学理工学部社会交通工学科の学部生（2，3，4年生）・日本大学理工学研究科社会交通工学専攻の大学院生、合計 176 人に対して、アンケート調査を行った。その結果から、同じ観光地に行ったことがある人、ない人では同じ観光地に行く際に重要視している項目が異なることがわかった。同じ観光地に行ったことがある集団では「前回行ったときの満足度」、「観光地の天気」、「観光地に行くときの体調」の3項目を重要視しており、同じ観光地に行ったことがない集団は、「誰と行くか」、「観光地のグルメ」の2項目を重要視していた。従って、学生がリピート行動をする際前回行ったときの満足度、「観光地の天気」、「観光地に行くときの体調」の3項目を重要視することがわかる。

今後の課題は、同じ観光地に行った回数などの具体的な数値による詳細なアンケート調査を行うことである。細密なデータを収集することで、学生のリピート行動を詳細な傾向を示すことができると考える。

参考文献

- 1) 清水 哲夫：観光におけるリピート来訪行動分析の論点，土木計画学研究発表会・講演集 Vol.30, 2004.
- 2) 佐藤友理子：国内旅行におけるリピーターの行動特性及び醸成要因に関する研究，筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科修士論文，2010.
- 3) 大方優子：観光地におけるリピーターの心理，東海大学福岡短期大学観光文化研究所・所報第13号，17-22, 2010.
- 4) 観光地マネジメント研究会：リピーター確保の重要。http://sdmr.jp/ppBlog/?UID=1247300285, 2012.12.27.